

令和4年度 学 校 評 価 報 告

草加市立草加小学校

(令和5年2月27日作成)

1 学校教育目標 (1) 考える子 (しっかり聞く、はっきり話す、自ら考え解決する) (2) 思いやりのある子 (明るいあいさつ・返事、ていねいな言葉づかい、人に優しいあたたかな心) (3) たくましい子 (楽しく運動ができる、健康と安全に関心をもつ、進んで集団行動ができる)	
2 重点目標・努力目標 (1) 教科指導 ・子どもの実態に即した教育を推進する。 (学力調査の活用等) ・学びの価値を実感できる授業を推進する。 ・学習指導要領の趣旨に沿った子ども主体の教育を推進する。 ・0歳～15歳を見通した教育を推進する。 ・ICT機器を活用する能力を育成する。 (2) 生徒指導・教育相談について ・「あいさつは一生の宝物」を合言葉にする。 ・いじめ・不登校対策に全力で取り組む。 (予防、発見、対応、解決、見届け) ・人との関わりを大切にする。 (3) 学校行事・教育活動全般において ・開校150周年記念事業を通じて、「我がふるさと草加小」を実感させる ・一人ひとりのよさを見つけ、褒め、伸ばす。 ・予測困難な未来でも、自分らしく生きていける知恵、しなやかでたくましい心と体を育む。 ・感動する心、生きる喜びを実感させる。	3 前年度の成果と課題 成果 ○保護者向け学校評価において、「お子様は、楽しく学校に通っていますか」の設問に対し、肯定的な回答が97%であった。 ○保護者や地域に対して、動画等の活用により教育活動を適切に公開した。 ○校内研修を通して、学び合いや振り返りの指導など、教職員で共有し実践することができた。 ○各種学力・学習状況調査の活用や取組を通して、全学年において学力の伸びが見られた。 課題 ●登下校時のあいさつ ●自己肯定感を高める取組 ●不登校児童の増加対策（SSWやSCとの連携、ケース会議の実施）

4 評価表 ※評価基準 [A: 十分達成している B: おおむね達成している C: やや不十分である D: 不十分である]			
領域	評価項目	評価の観点	評価 成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A ○学校教育目標に掲げる児童像に近づいていると感じる。 ○教職員一人一人が使命と誇りをもって勤務している。尊敬し信頼し合える人間関係が構築されつつある。 ○予算は本年度も99%以上執行率となる見込である。決算監査も適切に行っている。 ●諸会議の効率的な運営が必要である。

運営に関するもの	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○研究授業を年3回実施し、導入の工夫や話し合い活動の充実、振り返りの質の向上などを図ることができた。 ○OJT研修を実施し、教職員のキャリアに応じた学び合いにより資質向上に努めた。 ●学校行事等との業務のバランスを考え、年度当初の計画をより具体的に示す必要がある。
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○マニュアルが整備されていて、共通理解ができています。 ○日々の安全点検等で明らかになった危険箇所は、即対応をできた。 ○学校保健委員会を3年ぶりに実施した。
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○校支援の活用が進み、個人情報を持ち出す必要がなくなった。 ○個人情報管理、施設管理の瑕疵による事故等は無かった。 ●施設の老朽化に伴い、計画的な環境整備が必要である。
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○HP、スマイルメール、各種たよりを通じて、保護者地域への情報提供、発信を心がけた。保護者アンケートでも肯定的評価をいただいている。 ○学校運営協議会は、当初の計画通り、4回実施し、学校経営にご意見を頂くことができた。 ○開校150周年記念事業を通じて、保護者・地域との連携が強化された。
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○次年度に向けて全体計画や年間計画等を年度内に検討した。 ●連携交流行事、幼保小中一貫教育の研究について、各校・園との連絡調整を行い、具体化していく。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	○年間2サイクルで学力向上プランのPDCAサイクルを行い、学校や児童の実態に合ったプラン作りに努めた。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	○校内課題研修を通して、教職員の指導力向上と児童の学力向上を図った。 ○南部事務所指導主事を招聘しての県学力・学習状況調査活用研修を行った。これにより活用方法が分かり分析が進んだ。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	○道徳教育の抜本的改善に係る校内授業研究会などにより、教職員全体の指導力向上を図ることができた。 ○「こころのおと」など学校独自の取組により、家庭と連携しながら道徳教育の推進を図ることができた。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	A	○外国語専科とALTが指導内容について綿密に打合せを行い、充実した学習活動を展開することができた。 ○小中連携教員が週2回授業に入り、個に応じた指導等を充実させることができた。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	A	○新型コロナウイルスの感染状況により思うように実施できなかった行事等もあるが、そのような状況の中でも、実施方法を工夫し児童に豊かな人間性を育むことができた。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	○本校の特色を生かした学習活動を計画的に実施することができた。 ○外部人材・地域人材を多く活用することができた。 ●さらに学校や児童の実態を踏まえ、年間及び単元の指導計画の見直しを行う。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	B	○毎月の生徒指導委員会・いじめ防止対策推進委員会で情報共有や、組織的な対応策の検討を行い、適切な指導を行えるようにした。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	○中学校教師の乗り入れ授業など、中学校と連携して指導している。 ○キャリア教育の全体計画を見直した。 ●各教科等の年間指導計画に明確に位置づけたキャリア教育を展開していく必要がある。

⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○児童一人一人の実態に応じた計画的な交流学習を行うことで、通常学級との交流が深まった。 ○支援を要する児童について、児童実態報告会、個別カルテ、特別支援校内委員会などで情報を共有し指導を充実させた。
⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○全校でビブリオバトルに取り組み、読書に親しむ雰囲気醸成された。 ○司書教諭・学校司書が中心となり、「各学年のおすすめの本50選」「読書ビンゴ」「おはなし給食」などの取組を行うことで、貸出冊数が増加するなど成果が見られた。
⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「草加小 情報教育ステップアップ計画」を作成し、系統的にスキルを身に付けられるようにした。 ○情報・視聴覚部が中心となり、GIGA端末活用のための自主研修を行った。教職員による学校評価では、本校はICTの活用を積極的に行っているという意見が多く見られた。
⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○年間2回、教職員向けの人権教育研修を実施し、教職員の人権感覚を高め効果的な指導が行えるようにした。 ●各教科との連携がやや不十分である。次年度の各教科・領域の年間指導計画に人権教育との関わりを位置付け、より一層、人権教育の充実を図っていく。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	(1) ふるさとの森、ジャブジャブ池などの校内環境、及び開校150周年記念事業の取組を活かした教育の推進。	・木々を大切に思う心が育っている。 ・季節の変化を感じている。 ・愛校心や郷土愛が育っている。	A	○じゃぶじゃぶ池の環境を整備し、ふるさとの森と併せ、生活科や理科などの教科指導において効果的に活用した。 ○年間を通じて、学校の歴史や地域との関わりについて学習する機会をもち、学校や地域への愛着を高めることができた。
	(2) 異学年交流による自尊感情、思いやりの育成、助け合い、学び合いの推進	・クラブ・委員会の充実 ・縦割りあそびの充実 ・通学班での協力 ・年上へのあこがれ、感謝の気持ちが育っている。年下への思いやり、優しさが育っている。	B	○たてわり遊びを計画的に実施し、異学年交流の充実を図った。 ●今後の新型コロナ対応の状況に合わせてながら実施方法を工夫し交流の機会を増やしていく必要がある。
	(3) 食育の推進	・食事の大切さを知る。 ・食物への関心を持つ。 ・食事のマナーを知る。	A	○食事マナーについての動画を作成し、食事マナーの指導を行った。また、掲示物を用いて給食開始前に継続して指導を行っている。 ○校内給食展、地元こまつな農家の紹介動画、和食の紹介、食育授業の実施等、様々な取組により食育の推進を図っている。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

- 保護者向け学校評価において、学校に対しての評価項目については、いずれも90%以上の保護者から肯定的評価を得た。本校の教育活動に対して概ね理解を得られたと考える。また、アンケート項目「学校は、教育活動の内容を適切に公開しているか」という設問については、95%の保護者が概ねそう思うと回答した。年3回の授業公開(授業参観含む)の実施や動画等の活用により、本校の教育活動の公開についても適切に行えたと考える。
- 各種学力・学習状況調査の活用や校内課題研修の取組により、児童の学力向上を推進した。草加市学力・学習状況調査では、平均正答率が全学年の全教科で市内の平均を上回るなど成果が見られた。
- 登下校時のあいさつに課題がある。
- ICTを活用した教育を推進する。

〈学校運営委員会委員様より〉

- 児童向け評価では、特に高学年での思春期に心情の不安定さがあるように感じられる。学校の中で教職員が気づいた変化を保護者と共有してほしい。
- 自己肯定感に関するところが気になる。夢や目標をもつ、あるいは自分の良いところについて、教育活動全体及び日常の指導で意識して児童の良さを伸ばしてほしい。
- 様々な体験を通して、草加の特色やものづくり等にも興味をもってほしい。

6 次年度の改善策

- ICT活用については、教職員向け学校評価でも課題が挙がった。情報教育部を中心に、一層の充実を図る必要がある。
- 不登校児童の増加が課題である。SSWやSCとの連携を密にして支援・対応する必要がある。
- 幼保小中を一貫した教育の推進を図る。
- 教職員の働き方改革を推進し、持続可能な教育活動を実現する。